



Japan International Education Society

日本国際教育学会

# 第35回研究大会 開催要項

日程：2024年10月5日（土）・10月6日（日）

会場：広島大学 教育学部L棟

大会実行委員長より（ご挨拶）

日本国際教育学会第 35 回研究大会を、下記の要領にて、広島大学教育学部（東広島キャンパス）にて開催させて頂くことになりました。会員の皆様の多数のご参加をお待ち申し上げております。今大会も、「対面式」で開催させていただきます。また、昨今の経済情勢に鑑み、学生の参加費を「無料」とさせていただきますので、会員の皆様には、何卒よろしくお願い申し上げます。

第 35 回大会実行委員長 小川 佳万

1. 日程

2024 年 10 月 5 日（土）10 時 ~ 10 月 6 日（日）15 時

2. 会場

広島大学 東広島キャンパス（教育学部L棟）

〒439-8524 広島県東広島市鏡山 1-1-1 E-mail: jies35th@gmail.com



## 交通手段及び移動について

### ◆山陽新幹線をご利用の場合

- ・東広島駅→タクシー(約 20 分)→教育学部玄関前(※バスは土日祝運休)
- ・広島駅→JR 山陽本線(約 40 分)→JR 西条駅→バス(約 20 分)→広大中央口  
→徒歩 5 分→教育学部玄関前

### ◆広島空港をご利用の場合

- ・広島空港→リムジンバス(約 25 分)→JR 西条駅→バス(約 20 分)  
→広大中央口→徒歩 5 分→教育学部玄関前
- ・広島空港→バス(約 15 分)→JR 白市駅→JR 山陽本線(約 15 分)→JR 西条駅→バス  
(約 20 分)→広大中央口→徒歩 5 分→教育学部玄関前

詳しくは広島大学HP をご覧ください。

<https://www.hiroshima-u.ac.jp/access/higashihiroshima>

\*ホテルはご自身でご予約下さい。

## 3. 開催方法

大会は、「対面式」で開催します。

## 4. 大会日程

10月5日(土)

時間	プログラム	場所
9:30~10:00	受付	L棟1階
10:00~11:30	自由研究発表Ⅰ	L102、L104、L204
11:30~12:30	昼食休憩(学食の利用) シンポ打ち合わせ	
12:30~14:45	公開シンポジウム	L205
15:00~16:00	総会	L205

10月6日(日)

時間	プログラム	場所
9:30~10:00	受付	L棟1階
10:00~12:00	課題研究	L102
12:00~13:00	昼食休憩	
13:00~15:00	自由研究発表Ⅱ	L102、L104、L204

\*会員控室(L107)・大会実行委員会事務局(L108)

## 6. 参加費

会員 3,000 円 非会員 4,000 円 学生 無料

\*参加費は受付時にお支払い下さい。「公開シンポジウム」のみに参加される場合は無料です。領収書は大会受付時にお渡し致します。

\*今大会においては、学生の参加費は無料です。なお、情報交換会は予定していません。ご理解のほど宜しくお願い致します。

参加の申込は 2024 年 7 月 1 日から大会当日までに、参加申込Form (<https://forms.gle/4hN6uiWAe11bWze6A>) から必要事項を記入し、ご送信下さい。

## 7. 自由研究発表申込

(1) 発表申込ができるのは、本学会の会員で 2024 年度（8 月 1 日以降）の年会費を完納している方です。非会員の方は、申込期限までに入会申込の手続きをお願いします。共同研究でプログラムに口頭発表者を示す○がつかない場合も例外ではありません。

(2) 申込期間：7 月 1 日（月）～7 月 31 日（水）

(3) 発表申込は上記の期間中に、発表申込Form(<https://forms.gle/pK8CrRpM8Wa55cwW8>) に下記必要事項を記入し、ご送信下さい。

\*お申込の際のE-mail アドレス宛に、実行委員会事務局より「受領確認メール」をお送り致します。8 月 2 日（金）時点で「受領確認メール」が届かない場合は、大会実行委員会宛にご照会下さい。なお、参加費は大会受付時に申し受けます。

\*発表に際しPC 使用の場合、パソコンは各自でご用意（お持ち込み）下さい。なお、プロジェクターは利用できません。

③発表日や発表順は大会実行委員会で決定させていただきます。ご希望等は受付致しかねますので、予めご了承下さい。

## 8. 発表当日の留意事項

配付資料は、発表者が事前に各自印刷（30 部程度）の上、会場にご持参願います。

## 9. 発表時間および発表要旨・発表資料

### (1) 発表時間

個人研究／口頭発表者が 1 名の場合の共同研究 → 発表 20 分 質疑応答 10 分  
口頭発表者が 2 名以上の場合の共同研究 → 発表 40 分 質疑応答 20 分

(2) 発表要旨原稿は 8 月 1 日（木）～8 月 31 日（土）までにご提出下さい。

自由研究発表を申し込まれた会員は、下記の発表要旨集録原稿作成要領にしたがって原稿を作成し、以下の要旨提出用 Form または大会実行委員会宛のメール（添付ファイル、PDF 形式）にて、ご提出下さい（8 月 31 日必着）。

要旨提出用Form：<https://forms.gle/9BWU5PfNbz3UeXi89>

大会実行委員会 メールアドレス：jies35th@gmail.com

\*お申込の際のE-mail アドレス宛に、実行委員会事務局より「受領確認メール」をお送り致します。9 月 6 日（金）時点で「受領確認メール」が届かない場合は、大会実行委員会宛にご照会下さい。

### (3) 発表要旨集録原稿作成要領

①原稿締切 2024 年 8 月 31 日（土）必着

②原稿サイズ A4 縦長 横書き

③ページ設定 文字数 40 字、行数 38 行、余白 上下左右ともに 25mm

④ページ数 口頭発表者が 1 名：2 頁以内 口頭発表者が 2 名以上：3 頁以内

⑤タイトルはセンター揃え、名前は右揃えです。

1 ページ目は以下のように設定して下さい。

・1 行目：タイトル

- ・ 2 行目：サブタイトル ※サブタイトルがない場合は詰めて下さい。
- ・ 3 行目：空ける
- ・ 4 行目：氏名（所属） ※共同研究の場合、複数の氏名（所属）は  
1 行にまとめず、1 人ずつ行を変えて記載し、  
口頭発表者の氏名の前に○印を記載して下さい。
- ・ 5 行目：空ける
- ・ 6 行目：本文開始 ※サブタイトルの有無や共同研究者の有無によって  
本文開始位置は変わります。

⑥フォントは、MS 明朝・12 ポイントです。  
 基本的にはご提出いただいた原稿のまま印刷しますが、  
 全体のレイアウトは大会実行委員会で編集します。

※下記参考例 1～3 をご参照下さい。

〈参考例 1〉

タイトル —サブタイトル—
国際花子（〇〇大学）
本報告は、日本の教育改革の歴史的発展を国際比較の観点から・・・・・・・・

〈参考例 2〉

タイトル
国際花子（〇〇大学）
本報告は、日本の教育改革の歴史的発展を国際比較の観点から・・・・・・・・

〈参考例 3〉

タイトル
○国際太郎（〇〇大学） 国際花子（△△学校）
本報告は、日本の教育改革の歴史的発展を国際比較の観点から・・・・・・・・

## 10. 課題研究

### SDGsの推進とESDの展開 －国際教育的取り組みを軸にして－

- 報告1 古里 貴士（東海大学）  
公害教育の観点から
- 報告2 佐野 敦子（明治学院大学・研究員）  
社会統合の観点から
- 報告3 上野 昌之（東京都立大学・非常勤）  
アイヌとSDGs という観点から
- 司会 栗栖 淳（国土館大学）・吉田尚史（福岡女学院大学）

#### <趣旨>

これまでの課題研究において主題とされた多文化・多民族共生社会の実現や多様性の理念と実践の多様な担い手としての教師・指導者の育成・確保の観点は、国際教育研究において重要な位置づけであると考えられる。特にこれらの社会の在り方を基盤とする「持続可能な開発目標：SDGs」の実現において教育の果たす役割の重要性は世界的な枠組みにおいて認識されるものであり「持続可能な開発のための教育（‘Education for Sustainable Development’：ESD）」として、SDGs 達成への推進における具体的な教育実践の取り組みとして提唱されてきた。

現行学習指導要領におけるESDの観点は多様性、相互性、公平性などの育みを目標として掲げられるが、これらはただ一国のみの問題にとどまらず国際的な取り組みとして共有されるものである。このESDへの取り組みは2002年「持続可能な開発に関する世界首脳会議」での提唱から、2005年～2014年の「国連ESDの10年(DESD)」、2015年～2019年の「ESDに関するグローバル・アクション・プログラム(GAP)」、2019年の「持続可能な開発のための教育(ESD)に関するユネスコ世界会議」を経て、2030年に向けてSDGsの全ての目標達成の鍵であるESDを推進していくこと等が確認された「持続可能な開発のための教育(ESD)に関するベルリン宣言」の採択に至っている。これらの取り組みを踏まえつつ、国際教育の観点からSDGsへの進展とESDの取り組みについて第35回大会課題研究の主題と捉え課題研究を行いたい。

## 11. 公開シンポジウム

### 多文化保育の課題と保育実践者への支援

- 報告1 三宅 瑞穂（広島市子ども未来局）  
保育行政の立場から
- 報告2 濱名 毅（学校法人あけぼの学院）  
保育実践者の立場から
- 報告3 吉田 貴子（大阪国際大学短期大学部）  
研究者の立場から
- 指定討論者 小川 佳万（広島大学）
- 司会 中坪 史典（広島大学）

#### <趣旨>

近年の外国人労働者の増加とともに、日本社会はさらなる多文化・多民族化が進行し、多様な背景をもつ人々との共生を目指す社会の構築が政策課題として強調されている。そして保育・学校現場においてもその影響は強まり、異なる文化を背景にもつ幼児・児童・生徒の育ちや学びをどのように包摂するかが、保育・教育実践上の課題としてますます重要になってきている。

このような状況下において、特に幼児期は人格形成の基礎を培う重要な時期であるため、本シンポジウムでは、幼児教育に焦点を絞り、多文化保育の観点からどのような課題に日々直面しているのかを、教育行政の立場から（報告1）、保育実践者の立場から（報告2）、研究者の立場から（報告3）といったさまざまな立場から明らかにしていきたい。そしてこうした多文化保育の現状と課題を主として保育現場レベルで明らかにしながら、就学前教育において文化的多様性を包摂する保育とはどのようなものであるのか、保育実践者にはどのような支援が必要かについて検討していくことにしたい。

## 12. 大会実行委員会事務局連絡先

〒439-8524 広島県東広島市鏡山 1-1-1 広島大学教育学部  
比較国際教育学研究室「日本国際教育学会 第 35 回大会実行委員会  
お問い合わせ先 E-mail: jies35th@gmail.com

実行委員長	小川	佳万	(広島大学)
事務局長	中坪	史典	(広島大学)
事務局次長	黒木	貴人	(福山平成大学)
実行委員	石井	由理	(山口大学)
実行委員	内田	直義	(就実大学)